

八尾市文化財調査報告 34  
平成 7 年度 公共事業

八尾市内遺跡平成 7 年度発掘調査報告書Ⅱ

1996. 3

八尾市教育委員会



## はじめに

八尾市は旧河内国の範囲に含まれており、1704年に付け替えされるまでは大和川の主流である玉串川と平野川が市域を流れる水の豊かな、肥沃な土壌を有する土地でありました。このため古来より人々の足跡の絶えない場所であります。これまで八尾南遺跡では旧石器が出土していることからもそれは伺い知ることができます。このような歴史をもつ八尾市も近世には大半が耕作地として利用され、点在する村以外は一面に緑がひろがっていました。しかし、近年、都市郊外の住宅地として開発事業が盛んになり、水田や畠は宅地に変貌しています。

本書にはこのような開発事業に伴う平成7年度の遺構確認調査の報告をまとめてあり、市内における弥生時代から鎌倉時代の様相の一端をみることができます。今後こうして見つかった埋蔵文化財を活用すること、また市民の皆さんに埋蔵文化財を周知して頂き、埋蔵文化財の大切さを理解してもらうことが大きな課題であります。本報告書がの役割の一端を担うことができれば幸いです。

最後になりましたが、調査にご協力いただいた方々、関係者各位に感謝いたします。

平成八年三月

八尾市教育委員会  
教育長 西谷信次

## 例　言

- 1、本書は、平成7年度に八尾市教育委員会が公共事業として計画し、八尾市内で実施した造構確認調査の報告書である。
- 2、調査は八尾市教育委員会文化財課（課長　溝川博由）が事業主に協力を求めて実施した。
- 3、調査は八尾市教育委員会文化財課技師米田敏幸、瀧斎、吉田野乃が担当し調査にあたった。
- 4、本書には、巻末に記載した調査一覧表のうち、特に成果のあった調査について、その概要を収録した。
- 5、現地調査、報告書の作成にあたっては、以下の諸氏の参加、協力を得た。  
横山妙子、藤中貴子、木村典子、安達志津子、浅井紀己子、米原洋文、堀本昌弘、片山武志、  
池田茂樹、日高智隆、岡一雅  
(順不同・敬称略)
- 6、本書の作成にあたっては、米田、瀧、吉田が執筆・編集を行い、文責は文末に記した。
- 7、調査一覧表、報告書抄録の作成は本課技師藤井淳弘、吉田珠己が行なった。

## 本文目次

1. 老原遺跡（95-266）の調査	.....	1
2. 田井中遺跡（95-271）の調査	.....	3
3. 水越遺跡（94-663）の調査	.....	5
4. 矢作遺跡（95-313）の調査	.....	7
5. 久宝寺遺跡（91-158）の調査	.....	9

## 図版目次

図版1 田井中遺跡（95-271）・老原遺跡（95-266）

田井中遺跡調査区土層断面

老原遺跡調査区土層断面

調査地よりみた五条宮

図版2 久宝寺遺跡（91-158）

出土遺物

図版3 久宝寺遺跡（91-158）

出土遺物

図版4 久宝寺遺跡（91-158）

出土遺物

# 1. 老原遺跡（95-266）の調査

## 1. 調査地

老原1丁目地内

## 2. 調査期間

平成7年8月23日

## 3. 調査方法

道路新設工事に先立ち計画地に調査区2ヵ所を設け、排水用ボックスカルバート工事に伴う最深掘削1.5mまで遺構・遺物の確認調査を行った。なお、現況は周辺が水田であるため、水路部分で1.5m×0.8mの調査区設定した。

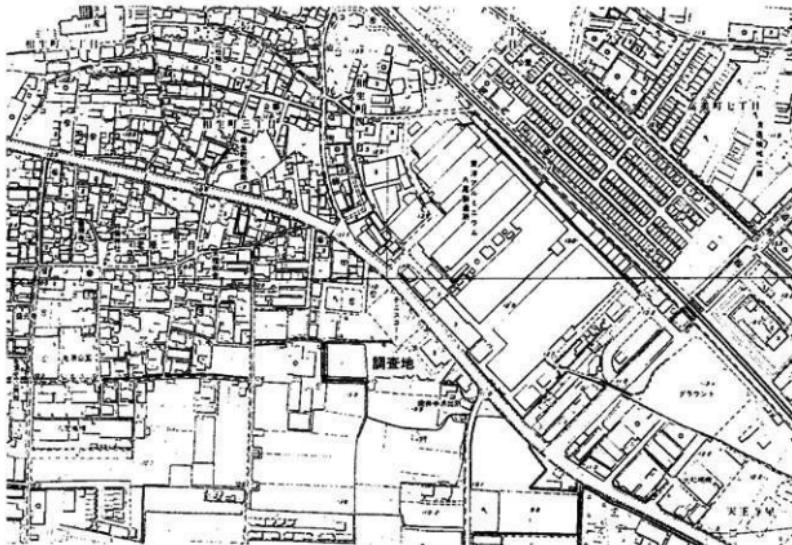
## 4. 調査概要

第1調査区—現代の水田に伴う表土と盛土を取り除くと地表下約0.6mの2層暗灰色粘砂上面において西壁付近で南北方向の溝状遺構が確認できた。時期は近世とみられる。そして、地表下0.85m以下の4～6層では土師器片・瓦器片に混じって馬齒なども出土している。この4～6層以下では細砂質粘土がみられた。

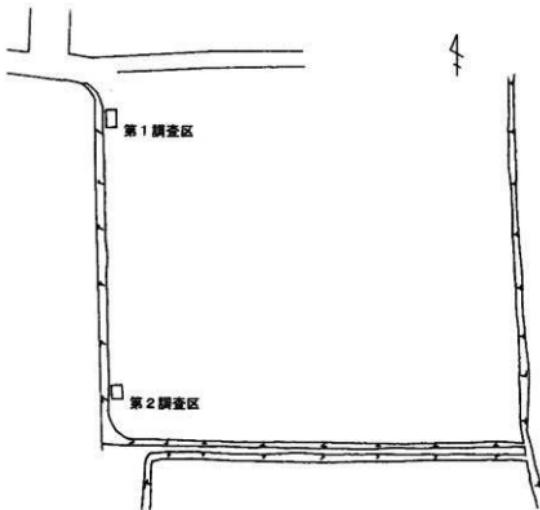
第2調査区—第1調査区で確認した近世の溝状遺構の続きを2層上面で検出した。この溝埋土である暗灰色砂混粘砂から陶磁器片が出土。この2層中には近世の瓦片が含まれており、やはり、第1調査区と同様に地表下0.85m前後以下9層～10層で土師器片・瓦器片が出土している。なお、この遺物包含層以下では微砂11層を確認した。

## 5. まとめ

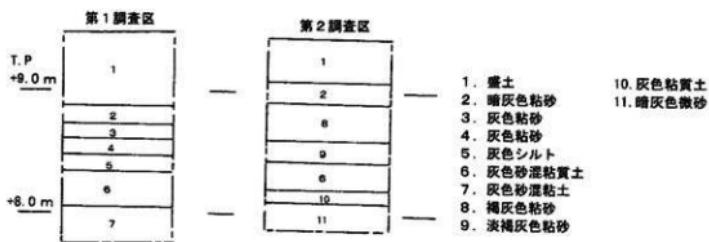
調査地の東南約100mには「五条宮址」と呼ばれている塚状の高まりが現在水田内に遺存している。調査が行われていないため、どのようなものかは不明であるがこれまで周辺では土師器片・瓦片が採取されている。特に瓦は細弁十六葉蓮華文で中房は凸線によって画され、1+8の蓮子を配しており、奈良時代後期のものとみ



第1図 調査地周辺図(1/5000)



第2図 調査区設定図(1/500)



第3図 基本層序模式図(1/40)

られる軒丸瓦が見つかっている。本調査は「五条宮址」の近辺ということもあり、奈良時代の遺物、遺構が検出されることが期待されたが、中近世の包含層と近世の遺構の確認にとどまった。しかし、瓦器、土師器は細片ながら多数出土しており、鎌倉時代の遺構が遺存していることが判明した。また現地表（水田面）の約1m下で中世の遺物が出土していることから、「五条宮址」の回りも盛土されていることが考えられ、現状と本来の姿はかなり異なっていることが推定される。（潜）

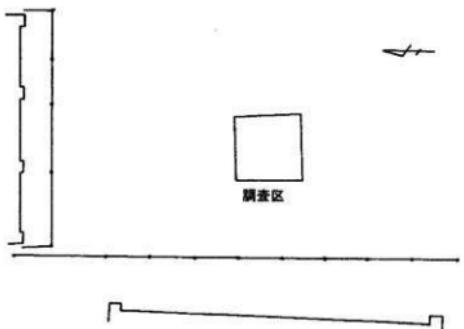
## 2. 田井中遺跡（95-271）の調査

1. 調査地 田井中町3丁目101  
2. 調査期間 平成6年8月8・9日  
3. 調査方法 小学校の屋内運動場増改築工事に先立ち、計画地に4m×4mの調査区を1ヵ所設定し、地表下3.7mまでの土層を観察、遺構・遺物の有無を確認した。  
4. 調査概要 現地表（TP+11.3前後）より、0.67m下で旧耕作土が見受けられる。4層淡灰茶色砂質土には陶磁器片、土師器片など近世の遺物を若干含む。4層下部では極細砂の5・6層が堆積している。  
以下7層と13層はシルト混の粘土、細砂混の粘質土であり、河川氾濫後の耕作土とみられる。上部を覆う細砂層内より遺物が出土していないため、時期は明確ではないが前述の4層出土の遺物から中世～近世に相当しよう。  
地表下1.65m前後には薄い細砂層の堆積がみられ、下部にはカルシウム粒を多く含む15層と16層の暗灰色粘質シルト～粘土（TP+9.55～9.15m）が確認できるさらに地表下2.15m前後（TP+9.15m）には茶褐色班暗灰色粘質土が存する。これらからやはり遺物は出土していないが、近辺での調査の層位関係から鎌倉時代から飛鳥時代の水田面に相当すると考えることができよう。

地表下 2.4~2.75 m にはシルト混細砂~細砂があり、これを除去すると上面が耕作相当層とみられる 22-Ⅰ 層灰緑色粘土 ( $TP + 8.55 \text{ m} \sim 8.38 \text{ m}$ ) があり、下部の 22-Ⅱ 層には植物遺体が多く含まれる。そして、地表下 3.15 m ( $TP + 8.15 \text{ m}$  前後) にある 23 層明灰緑色粘土中から庄内土器片が見つかっている。このようなことから 22-Ⅰ 層は庄内期以降の耕作土と判断でき、下部の植物遺体から古墳時代前



第4図 調査地周辺図(1/5000)



第5図 調査区設定図(1/300)

かっている。これに対して、志紀遺跡では縄文前期から近・現代まで耕作遺構が連続と続いている。このようなことから田井中遺跡と志紀遺跡は居住域と耕作域という相関関係で捉える見方がなされている。

本調査はその意味では両者の縁辺を確認する好機であった。しかし、概要で述べてきたように耕作土とみられる堆積層を検出したことから、耕作域がさらに東にのびることが明らかとなった。

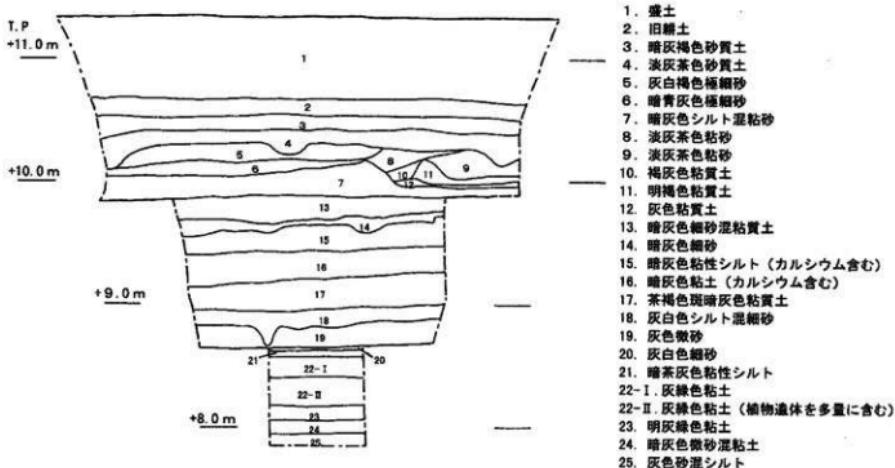
(消)

期には沼状の様相を呈していたことが考えられる。

## 5.まとめ

田井中遺跡は志紀遺跡の西隣に所在する。近年の遺跡区画の変更に伴いこれまで田井中遺跡としていた志紀町西2・3丁目が志紀遺跡に含まれることになり、本調査地は田井中遺跡の東端に位置することになった。

当遺跡の西南では弥生前期から集落が形成されていことが最近の調査から判明しており、遺跡の西端付近では縄文時代晚期である長原期の遺構も見つ



第6図 南壁土層断面図(1/40)

### 3. 水越遺跡（94-663）の調査

- ## 1. 調査地 八尾市服部川1丁目102番地

2. 調査日 平成7年7月20日、21日

- ### 3. 調查概要

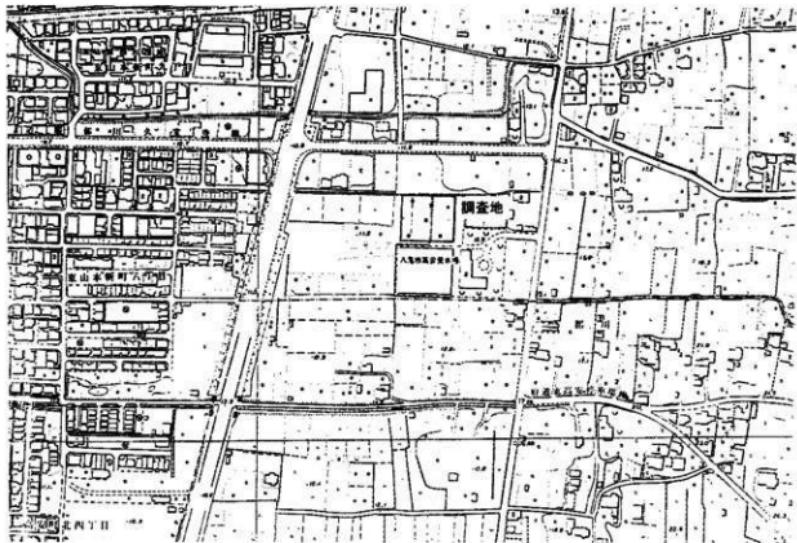
3 m四方の調査区を6ヶ所設定し、重機と人力を併用して地表下3.5 m前後まで掘削した。現地表は東側が高く、西側との高低差は大きいところで2 m余りに達する。第5調査区を除いてすべての調査区で、鎌倉時代と古墳時代の遺物包含層及び遺構面を検出した。鎌倉時代の包含層は標高11.0 m前後で確認している。これは東側の2ヶ所では地表下2.5 m前後、西側では地表下1.6 m前後になる。この包含層の厚さは最大で0.4 m余りになる。

古墳時代の包含層は標高 10.2~10.9 m 前後にあり、東側では地表下 3.1 m で、西側では地表下 1.7 m でその上面を確認している。包含層の厚さは最大部で 0.5 m 前後を測る。鎌倉時代の包含層からは瓦器片・土師器片が、古墳時代の層からは第 2・第 3 調査区では須恵器片・土師器片等が出土している。

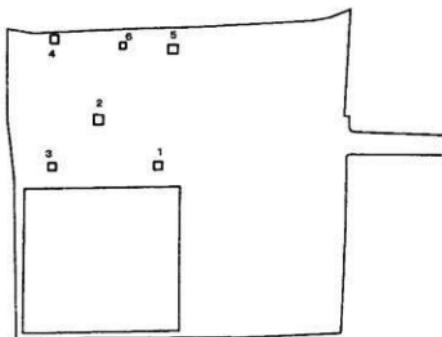
- #### 4. 調查結果

当調査地では中世と古墳時代の遺構面、包含層を確認した。当調査地の隣接地では、弥生時代から古墳時代の墓域、鎌倉時代の鋤溝などが確認されている。また、当調査区の南側に近接して、古墳時代後期の前方後円墳である郡川西塚、郡川東塚などがある。今回の調査成果はこれらと密接な関係をもつものであり、きわめて重要な成果である。

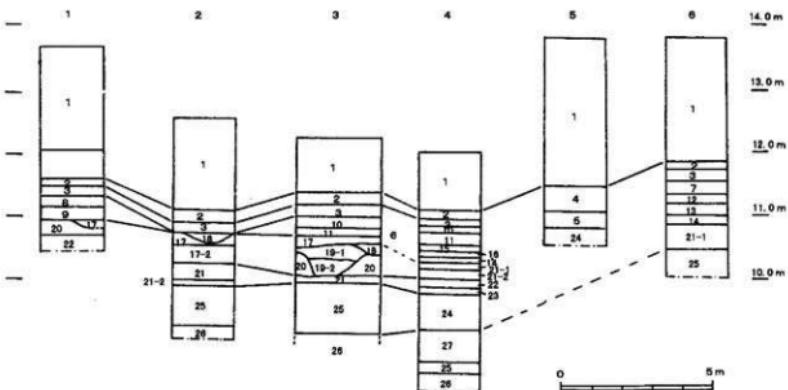
(吉田)



第7図 調査地周辺図 (1/5000)



第8図 調査区設定図(1/800)



- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1. 盛土層          | 15. 明灰茶色粗砂      |
| 2. 耕作土層         | 16. 茶灰色粘砂層      |
| 3. 淡灰綠粘砂層       | 17. 灰紫色砂層       |
| 4. 灰白砂層         | 18. 茶灰紫色砂層      |
| 5. 灰白砂層         | 19.1. 灰紫色沙      |
| 6. 灰色粘砂層        | 19.2. 灰紫色粗砂層    |
| 7. 茶褐色斑灰色粘砂層    | 20. 茶灰色砂質土      |
| 8. 灰色粘性砂        | 21-1. 灰紫色粘性砂質土  |
| 9. 灰色粘砂層        | 21-2. 淡灰紫色粘性砂質土 |
| 10. 灰茶色粘砂層      | 22. 灰色粗砂層       |
| 11. 茶灰茶色シルト質粘砂層 | 23. 灰色砂層        |
| 12. 灰茶色シルト質粘砂層  | 24. 灰色粘砂層       |
| 13. 淡灰茶色シルト質粘砂層 | 25. 暗黑灰色粘土      |
| 14. 茶褐色斑灰色粘砂層   | 26. 灰色小砾混粗砂層    |
- 古墳時代後期包含層
- 古墳時代後期溝状构造埋土
- 土器器皿含む

第9図 調査区土層断面柱状図(1/80)

## 4. 矢作遺跡（95-313）の調査

1. 調査地 八尾市南本町8丁目2番地

2. 調査日 平成7年8月17日

3. 調査概要 2m四方の調査区を2ヶ所設定し、重機と人力を併用して西調査区は地表下2.5m前後まで、東調査区は地表下3.2m前後まで掘削した。現地表は東側が0.4m程度高い。

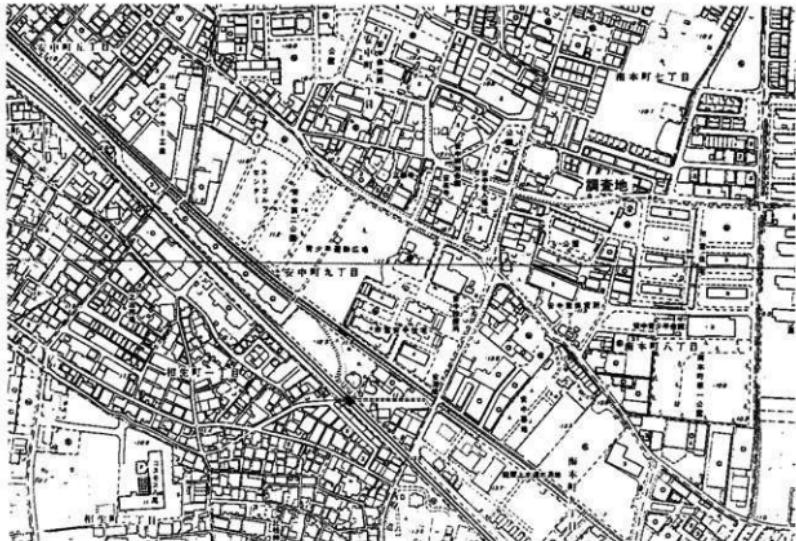
西調査区では地表下1.6mの黄灰色粘砂層上面で、平安時代中期頃の土師器片を含むピット等を検出した。ピットの埋土は暗灰色粘砂層である。東調査区では、西調査区に対応する黄灰色粘砂層を地表下1.2m前後で検出した。当調査区ではこの面で瓦器片を含む土坑状の遺構を検出した。土坑状遺構の埋土は、灰茶色砂質土層、暗灰茶色粘質土層である。この遺構は調査区が狭小であるため判然としないが、土層断面の状況から1つ上の面からのきりこみである可能性が高い。

さらに東調査区においては、地表下3.2m前後まで下層確認を行ったが、地表下1.8~3.0mまでは微砂層・粗砂層の堆積であり、地表下3.1m以下は暗灰粘土層の堆積であった。自然流路状の堆積とみられ、遺構・遺物等は確認できなかった。

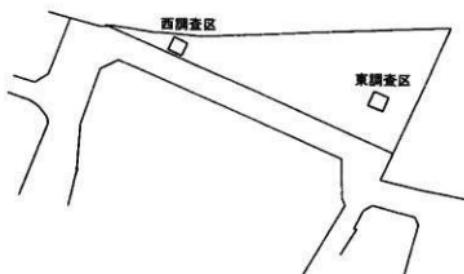
4. 調査結果

当調査地では、平安時代と鎌倉時代の2つの遺構面を検出した。調査地周辺では鎌倉時代の集落跡等は確認されているが、平安時代についてはこれまで良好な資料を欠いていた。その意味で、今回の調査は矢作遺跡の平安時代の様相を示唆する重要な資料になるものと思われる。

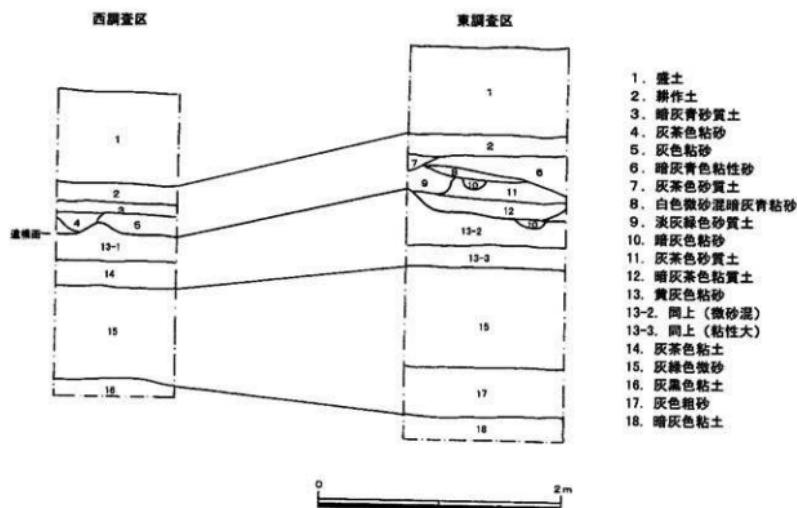
（吉田）



第10図 調査地周辺図 (1/5000)



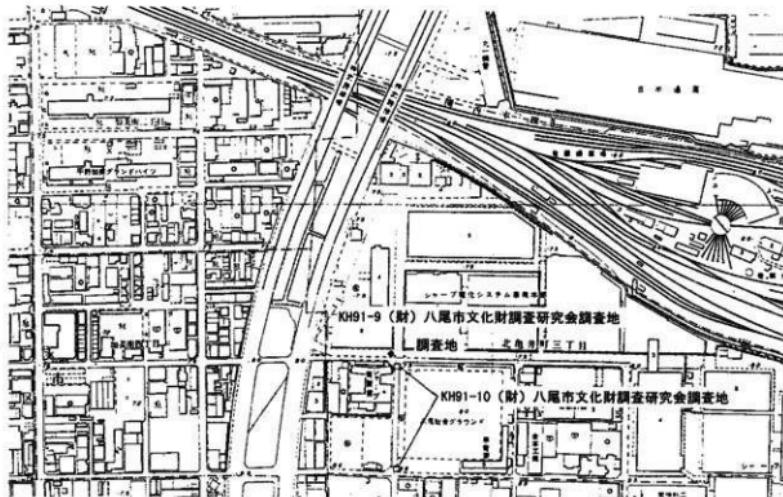
第 11 図 調査区設定図



第 12 図 調査区土層断面柱状図(1/40)

## 5. 久宝寺遺跡（91-158）の調査

1. 調査地 北龜井町3丁目地内  
2. 調査期間 平成3年12月4日  
3. 調査経過 本調査は、平成3年度飛行場北排水区第1工区工事による立坑構築に伴って実施した立会調査である。本工事においては、他に立坑2箇所が計画されており、財八尾市文化財調査研究会によって発掘調査が実施された（KH 91-10）が、弥生時代後期の河川跡及び古墳時代前期（布留式期）の包含層が確認されたに留っていた。その後本工事の追加工事として北龜井町3丁目72先のシャープ株式会社工場敷地内に3m四方の立坑が構築されることになった。当教育委員会では夜間工事として実施されるため立会調査に止めざるを得ないと判断し、包含層対応層上面まで工事掘削が終わった時点での立会となつた。  
4. 調査概要 立会時には、すでに地表下1.8mまで掘削工事が完了しており、包含層の深さに達していたため、手掘りを実施したところ、調査開始面直下に濃密な土器集積があることが明らかとなった。しかし夜間調査であり、翌日に調査を持ち越すことが不可能であるため、やむなく調査区内全域に集積する土器を收拾したのち断面観察を実施することにした。その結果、土器集積は、立坑内に25cmの厚みに堆積する包含層内に存在していた。この包含層は、上層の植物遺体を含む黒灰色粘土と下層の灰色シルトに細分することができ、土器集積の多くは、包含層下層よりの出土であると思われる。包含層のベースは、淡灰色細砂層となっており、シャープ工場建設に伴って財八尾市文化財調査研究会によって実施された隣接調査地（KH 91-9）の古墳時代前期の遺構面の状況とも一致している。



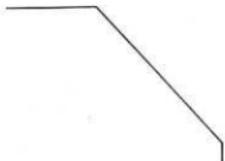
第13図 調査地周辺図 (S=1/5000)



調査地



KH91-10 (財)八尾市文化財調査研究会調査地



第14図 調査地配置図(1/200)



第15図 土層断面図(1/40)

## 5. 出土遺物

本調査で出土した土器は多数におよび、多くが完形かそれに近い形状まで復元することができた。器種毎に出土土器の特質について記述する。

壺には複合口縁壺と直口壺、小型丸底壺がある。複合口縁壺には、円形浮文で加飾するもの(1)無文のもの(2. 3)山陰系複合口縁を模倣したもの(4)がある。直口壺には大型品(5～7)と小型品(9～11)がある。また長胴の直口壺(8)もある。

小型丸底壺は短く内弯ぎみの口縁部をもつもので、強いナデにより複合口縁状を呈するもの(14)台脚を持つもの(15)がある。

小型器台(16. 17)は精製されたもので口縁部が拡張しないものである。

小型鉢には、屈曲した口縁を持つもの(18～21)と単純外反口縁のもの(22. 23)がある。

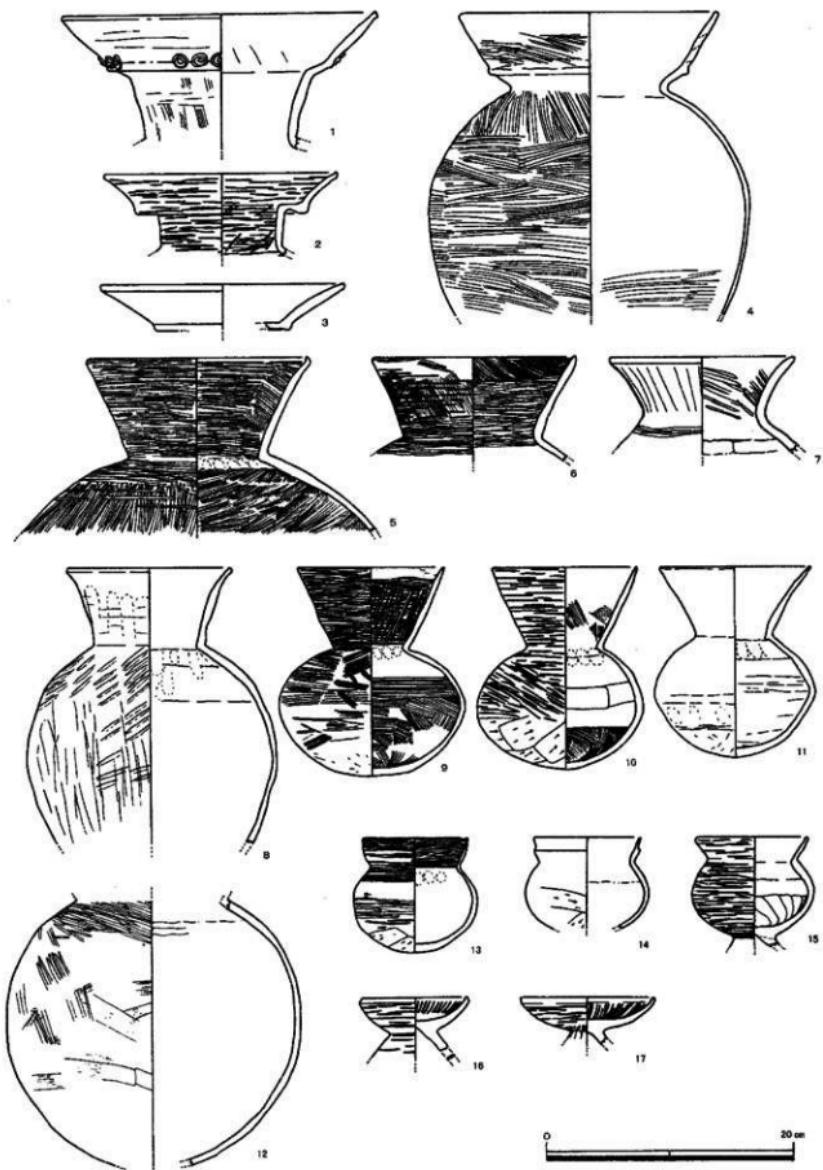
高坏(24～27)は、小さな坏底より屈曲して開く長い口縁をもつもので、脚部は短く、庄内式新相に典型的にみられるものである。

甕には、庄内甕、布留系甕、阿波系甕(40. 41)、東海系甕(42)がある。庄内甕は下膨れ球形を呈し、叩き目を上半部に残す庄内甕D類(29～32)と全面刷毛調整を施す庄内甕E類(33～35)がある。布留系甕には口縁端面が外傾する布留系甕C類(36. 37)と内傾する布留系甕D類(38)があり、直立する口縁(39)を持つものは、布留系甕ではなく、短頸壺の可能性がある。

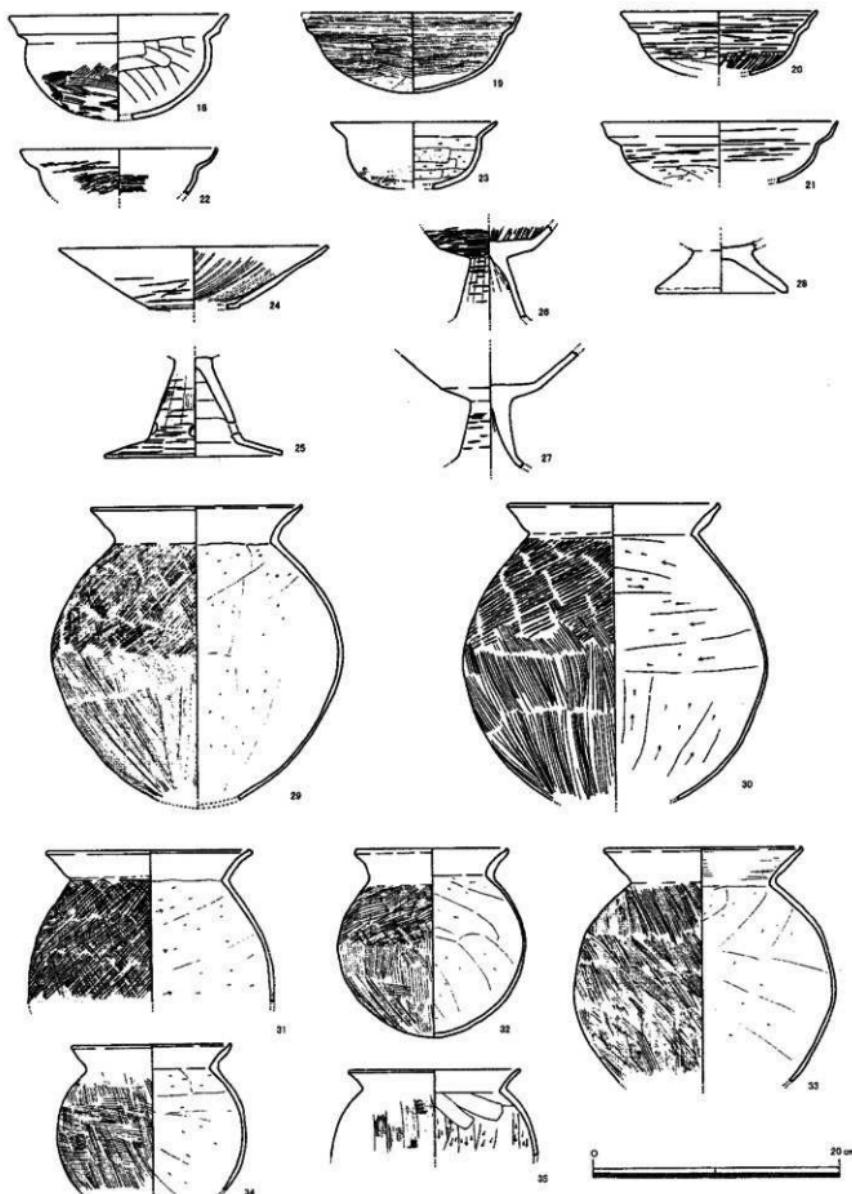
大型鉢には、「く」の字内弯口縁(43)のものと複合口縁状を呈する片口のもの(44)がある。

## 6. 調査結果

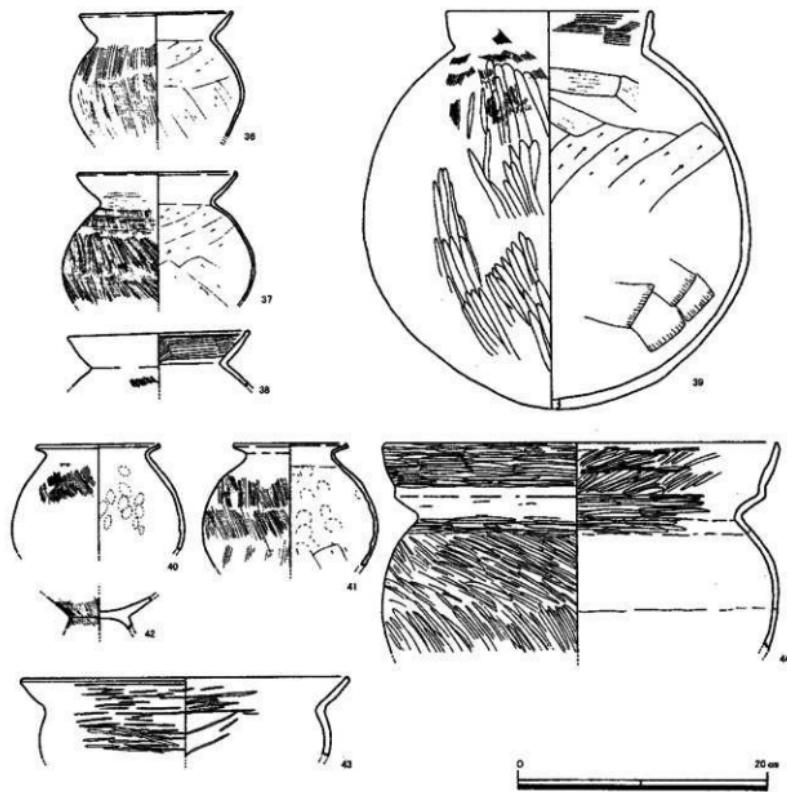
出土した土器は、河内の古式土器の編年に照らせば、庄内式期IVの時期を中心と庄内式期Vに近い要素も併せもつものであるが、同時存在する一括資料として位置づけることも可能である。ただ調査状況が劣悪のため、遺構の状況は明確にできなかったが、出土時の状況から、溝や土壤に伴うものでないことは明らかであり、堅穴住居のような、浅い遺構の中で密集して集積していた可能性は否定できない。



第16図 遺物実測図



第17図 遺物実測図



第18図 遺物実測図

番号	器種	部位	法量(cm)	形態・調整の特徴	胎土の特徴	色調等
1	複合口縁壺	縁部	口径 25.4	外面 縦ハケ後横ナデ 内面 横ナデ	3寸以下の花崗岩、チート石英、長石粒含む。	茶褐色
2	複合口縁壺	口縁部	口径 18.7	内外面 細かい横ヘラミガキ	2寸の花崗岩、チート、石英粒含む。	淡橙褐色
3	複合口縁壺	口縁部	口径 19.6	内外面 ナデ	3寸の花崗岩、石英、長石、黒雲母粒含む。	淡乳褐色
4	複合口縁壺	口縁胴部	口径 20.6	外面 脇部縦ハケ後横ハケ、口縁部 斜めハケ後ヨコナデ。内面 ナデ。	花崗岩、石英、長石粒含む。	淡褐色
5	直口壺	口縁部	口径 17.7	脇部外面 縦ヘラミガキ 内面ハケ目 口縁部内外面 細かい横ヘラミガキ。	石英、長石の細粒を含む。	赤褐色。 朱色顔料塗布
6	直口壺	口縁部	口径 16.5	内外面 縦ハケ後細かい横ヘラミガキ	3寸以下のチート、長石 石英粒を含む。	淡橙褐色
7	直口壺	口縁部	口径 15.0	外面及び口縁部内面 横方向ヘラミガキ。	3寸の流紋岩、チート粒 を多く含む。	淡褐色
8	直口壺	口縁胴部	口径 13.2	脇部外面 叩き後横ハケ。内面ナデ、肩部付近指ナデ	3寸以下のチート、花崗岩粒を含む。	乳褐色
9	直口壺	口縁部	口径 12.0 器高 16.9	外面 細かい横ヘラミガキ。底部付近 ヘラケズリ。 内面 体部ハケ調整、口縁底後横の縦かくへラミガキ	1寸の石英、長石粒を含む。	暗褐色
10	直口壺	口縁部	口径 11.6 器高 16.4	外面 細かい横ヘラミガキ。底部付近 ヘラケズリ。 内面 ハケ調整後ナデ	1寸の石英、長石、角閃石粒を含む。	暗橙褐色
11	直口壺	口縁部	口径 12.3 器高 15.5	内外面 ヨコナデ 外面底部付近ヘラケズリ。	1~2寸の花崗岩、チート石英、長石粒を含む。	灰褐色
12	壺	胴部	胴径 24.0	外面 ハケ後ヘラミガキ。内面 ナデ	1~2寸のチート、花崗岩粒を含む。	淡橙褐色
13	小型丸底壺	完形品	口径 8.5 器高 9.3	体部外面及び口縁部内外面 細かい横ヘラミガキ、底部付近ヘラケズリ。体部内面 ユビナデ。	1寸以下の花崗岩、石英、黒雲母粒を含む。	灰褐色
14	小型丸底壺	口縁胴部	口径 8.6	外面 ナデ、下半部ヘラケズリ。内面 ナデ	1寸以下のチート、石英 長石粒を含む。	淡橙褐色
15	小型丸底壺	脚台欠損	口径 8.9	外面 細かい横ヘラミガキ。内面 ユビナデ	1寸以下の花崗岩粒を含む。	淡橙褐色
16	小型器台	受部	口径 8.7	外面 細かい横ヘラミガキ。 内面 縦ヘラミガキ後横ヘラミガキ。	1寸以下の花崗岩、閃綠岩、石英、長石含む。	暗褐色
17	小型器台	受部	口径 10.8	外面 細かい横ヘラミガキ。下部ケズリ。内面 縦ヘラミガキ後横ミガキ。	1寸以下のチート、石英 長石粒を含む。	暗褐色
18	小型鉢	ほぼ完形	口径 17.8 器高 8.6	外面 下半ハケ、上半ヨコナデ 内面 ナデ	1寸以下の石英、長石 角閃石を含む。	灰褐色
19	小型鉢	完形品	口径 17.6 器高 6.5	内外面 細かい横ヘラミガキ。底部付近外面ヘラケズリ。	1寸以下の花崗岩、石英、長石を含む。	暗褐色

久宝寺遺跡(91-158)出土土器観察表1

番号	器種	部位	法量(cm)	形態・調整の特徴	胎土の特徴	色調等
20	小型鉢	口縁部	口径 15.8	外面 横ヘラミガキ、底部ヘラケズリ 内面 見込み部放射後横ヘラミガキ。	花崗岩、雲母、自形角 閃石、赤色粒細粒含む	灰橙褐色
21	小型鉢	口縁部	口径 19.0	外面 横ヘラミガキ、底部ヘラケズリ 内面 横ヘラミガキ。	花崗岩、チャート、石英、 自形角閃石細粒を含む	淡橙褐色
22	小型鉢	口縁部	口径 16.0	外面 ヘラケズリ後横ヘラミガキ。 内面 横ヘラミガキ。	2寸以下のチャート、石英 長石粒を含む。	淡橙褐色
23	小型鉢	口縁部	口径 13.2	外面 ナデ。 内面 ヘラケズリ。	1寸以下の石英、長石 角閃石の細粒を含む。	淡橙褐色
24	高壺	壺部	口径 21.8	外面 細い横ヘラミガキ 内面 縦後横ヘラミガキ	1寸以下の花崗岩、石 英、長石、黒雲母含む	淡橙褐色
25	高壺	脚部	脚径 14.5	外面 縦ケズリ後細い横ヘラミガキ 内面 指ナデ	1寸以下の花崗岩、石 英、長石、角閃石含む	橙褐色
26	高壺	壺脚部	残存高 7.6	壺外面 細い横ヘラミガキ。壺内面放射 ヘラミガキ。脚外面 縦後横ヘラミガキ 脚内面 指ナデ	1寸以下の石英、長石 角閃石、赤色粒の細粒 を含む。	橙褐色
27	高壺	壺脚部	残存高 9.6	外面 細い横ヘラミガキ。壺底 ヘラケ ズリ。壺内面 細い横ヘラミガキ。	1寸以下の花崗岩、石 英、長石、赤色粒含む	淡橙褐色
28	台付鉢か	脚台部	脚径	外面 ナデ 内面 ナデ	4寸以下の花崗岩、石 英、長石、黒雲母含む	暗灰褐色
29	庄内甕D	ほぼ完形	口径 17.0 器高約 25.0	外面 上半部細いタタキ、下半部縦ハ ケ。内面 ヘラケズリ。	2寸以下の閃緑岩、角 閃石、長石粒を含む。	暗茶褐色
30	庄内甕D	ほぼ完形	口径 17.0 器高約 25.0	外面 上半部細いタタキ、下半部縦ハ ケ。内面 ヘラケズリ。	3~2寸の花崗岩、閃 緑岩、角閃石粒を含む	暗灰褐色
31	庄内甕D	口縁部	口径 17.0	外面 上半部細いタタキ後部分ハケ 内面 ヘラケズリ。	3~2寸の花崗岩、閃 緑岩、角閃石粒を含む	暗茶褐色
32	庄内甕D	完形品	口径 器高	外面 上半部細いタタキ、下半部縦ハ ケ。内面 ヘラケズリ。	角閃石、黒雲母、石英 長石を多く含む。	暗茶褐色
33	庄内甕E	口縁胴部	口径 16.0	外面 全面縦ハケ。 内面 ヘラケズリ。	1寸以下の石英、長石 角閃石の細粒を含む。	灰茶色
34	庄内甕	口縁胴部	口径 16.0	外面 タタキ後横ハケ後縦ハケ。 内面 ヘラケズリ。	2寸以下の角閃石多く 長石、石英粒を含む。	暗茶褐色
35	V様式系甕	口縁胴部	口径 13.6	外面 タタキ後縦ハケ。 内面 ヘラケズリ後板ナデ。	2寸以下のチャート、泥岩 長石粒を含む。	淡橙褐色
36	布留系甕C	口縁胴部	口径 12.3	外面 全面縦ハケ。 内面 ヘラケズリ。	2寸以下の流紋岩、石 英粒を含む。	淡橙褐色
37	布留系甕C	口縁胴部	口径 12.8	外面 縦ハケ後肩部横ハケ。 内面 ヘラケズリ。	2寸以下の石英、長石 雲母粒を含む。	乳白色
38	布留系甕D	口縁部	口径 14.6	外面 縦ハケ後横ナデ。 内面 ヘラケズリ。	3寸以下の流紋岩、泥 岩、石英粒を含む。	灰黑色
39	短頸壺?	ほぼ完形	口径 16.4 器高 32.2	外面 ハケ後縦方向ヘラナデ。 内面 板ナデ。	3寸以下のチャート、泥岩 石英粒を含む。	乳褐色

久宝寺遺跡(91-158)出土土器観察表2

番号	器種	部位	法量(cm)	形態・調整の特徴	胎土の特徴	色調等
4 0	阿波系甌	口縁胴部	口径 7.8	外面 縦ハケ 内面 指押さえナデ	2.5以下の結晶片岩、ナ イト、白雲母を含む。	淡赤褐色
4 1	阿波系甌	口縁胴部	口径 9.0	外面 縦ハケ 内面 ハラケズリ後指押さえナデ	2.5結晶片岩(石英片 岩か)を含む。	淡赤褐色
4 2	東海系甌	脚部	脚上径 4.8	外面 縦ハケ 内面 ナデ	1~2.5の自形石英、 黒雲母、角閃石を含む	乳褐色
4 3	大型鉢	口縁部	口径	外面 横ヘラミガキ 内面 口縁部ヘラミガキ、胴部ナデ	3.5以下のナイト、花崗 岩、赤色粒を含む。	淡橙褐色
4 4	大型鉢	口縁胴部	口径	外面 口縁横ヘラミガキ、胴部斜めヘラ ミガキ。内面 口縁横ヘラミガキ、胴部 ナデ	3.5以下の花崗岩、石 英、長石粒含む。	明褐色

久宝寺遺跡(91-158)出土土器観察表3

#### 参考文献

米田敏幸 「中河内の庄内式土器と搬入土器」『考古学論集第1集』考古学を学ぶ会 1985

同 「中南河内の布留系土器群について」『考古学論集第3集』考古学を学ぶ会 1990

(米田)

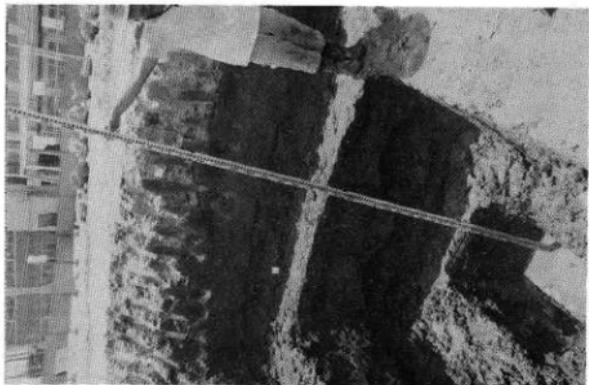
# 報告書抄録

ふりがな	やおしないいせきへいせい7ねんどはつくつちょうさほうこくしょ					
書名	八尾市内遺跡平成7年度発掘調査報告書II					
副書名	平成7年度公共事業					
巻次						
シリーズ名	八尾市文化財調査報告					
シリーズ番号	34					
編著者名	米田敏幸・酒井・吉田野乃					
編集機関	八尾市教育委員会					
所在地	〒581 大阪府八尾市本町1丁目1番1号					
発行年月日	西暦1996年3月31日					
所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積
		市町村 遺跡番号	°' "	°' "		(m <sup>2</sup> )
老原遺跡	大阪府八尾市 老原	27212		34° 13' 5"		道路新設に伴う遺構確認調査
				36' 36'	19950823	2.4
				10' 30'		
久宝寺遺跡	八尾市北龜井町	27212		34° 13' 5"		公共下水道工事に伴う遺構確認調査
				37' 35'	19931204	9
				20' 15'		
田井中遺跡	八尾市田井中	27212		34° 13' 5"		屋内運動場建設に伴う遺構確認調査
				35' 36'	19950808,09	1.6
				50' 22'		
水越遺跡	八尾市服部川	27212		34° 13' 5"		高安受水槽増設に伴う遺構確認調査
				37' 38'	19950720,21	5.4
				45' 35'		
矢作遺跡	八尾市南本町	27212		34° 13' 5"		市営住宅増築に伴う遺構確認調査
				36' 36'	19950817	8
				50' 22'		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
老原遺跡	集落	中・近世	溝	磁器・瓦器・土師器		
久宝寺遺跡	集落	古墳時代	土器包含層	庄内式期IVを中心とする古式土師器		
田井中遺跡	集落	古墳時代前期～中世	耕作相当層	庄内土師片		
水越遺跡	集落	古墳時代	溝	土師器・須恵器		
矢作遺跡	集落	平安時代 鎌倉時代	ピット・土坑	土師器・瓦器		

# 図 版

田井中遺跡

調査区土層断面



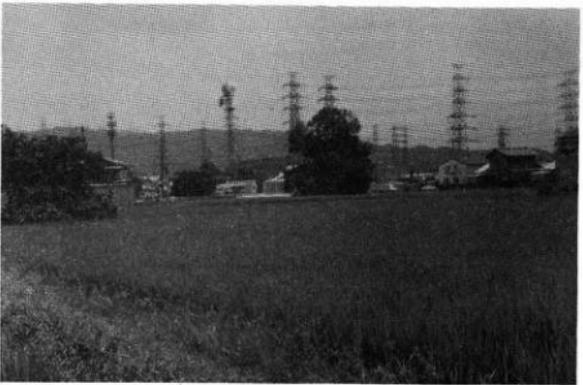
老原遺跡

調査区土層断面

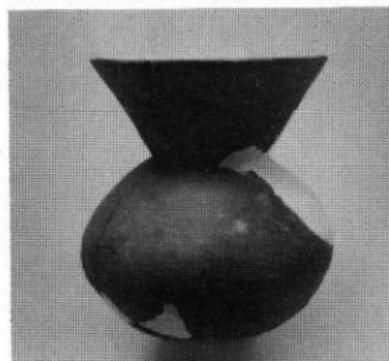
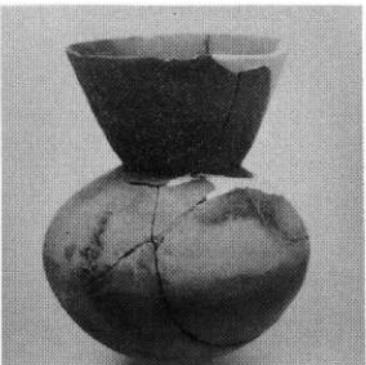
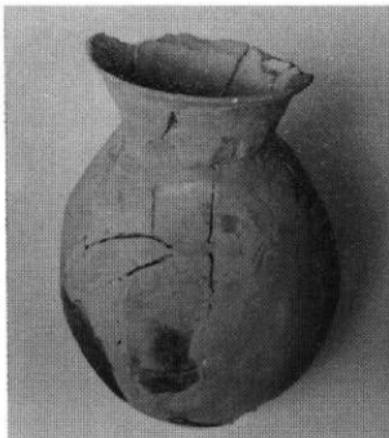


調査地より見た

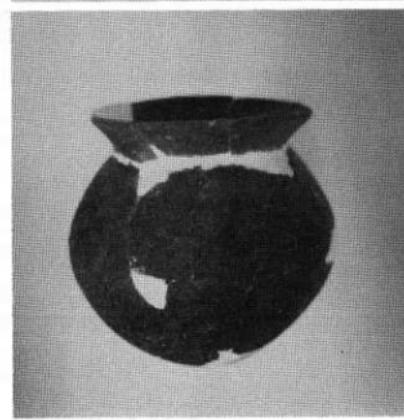
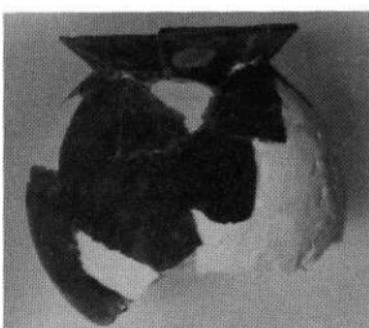
五条宮(中央水田中の築み)

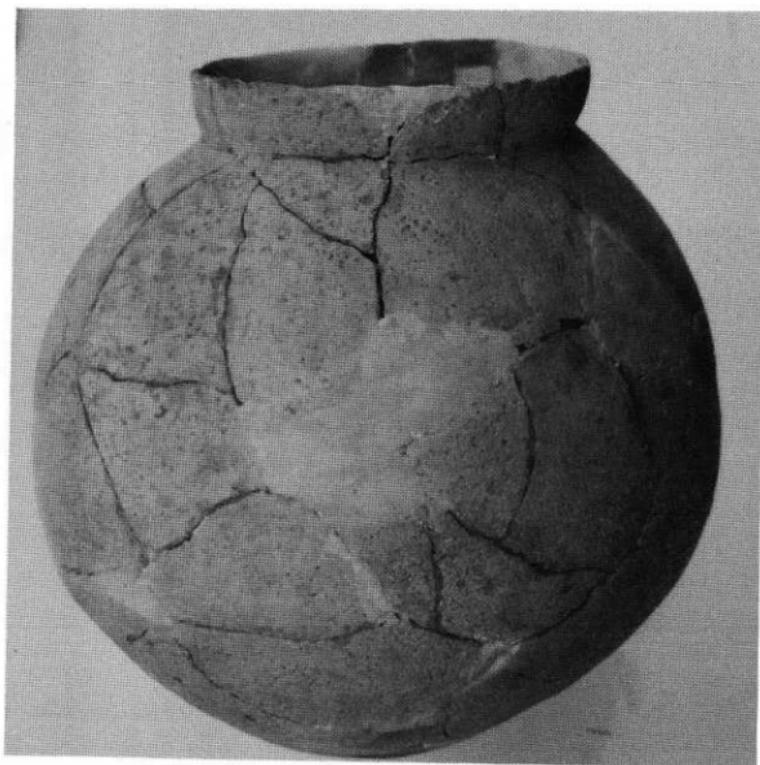
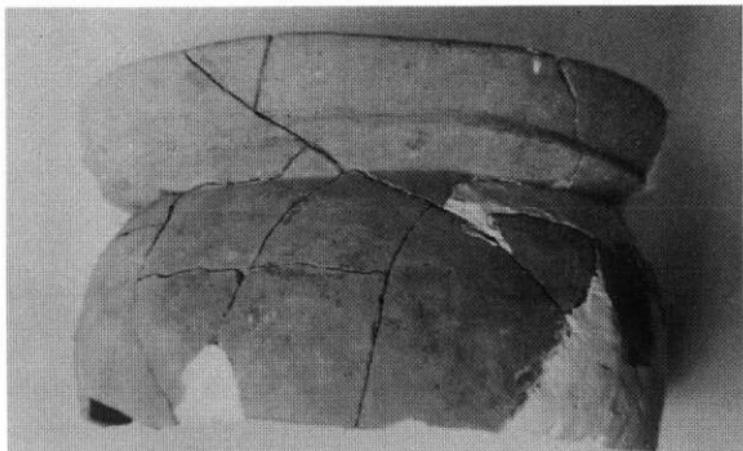


図版2 久宝寺遺跡  
91 — 158 出土遺物



図版3 久宝寺遺跡  
91 | 158 出土遺物





**八尾市文化財調査報告 34  
平成 7 年度 公共事業**

**八尾市内遺跡平成 7 年度発掘調査報告 II**

発行日 1996 年 3 月

発行所 八尾市教育委員会

印刷 旭堂印刷（株）

